

# 個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移住労働者）の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

（研究代表者 東優子）

エイズ予防財団成果発表会

現在、サハラ砂漠以南のアフリカ諸国を除けば、HIV の最も高い感染リスクにさらされている「脆弱な集団」として知られているのは、MSM・静注麻薬使用者・セックスワークに係る人々（ワーカーとその顧客）です。

国内においても「性風俗産業の従事者及び利用者」は「感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために施策の実施において特別な配慮を必要とする人々」（＝個別施策層）として認識されながらも、法律の壁や性道徳・規範など諸要因を背景として、具体的な支援・対策は遅々として進んでいません。

## 滞日外国人と性の健康 SEX★WORK★HIV★LIFE

一方、「外国人」もまた「個別施策層」の一つに挙げられ国内での様々な取り組みが展開されているところですが、「外国人セックスワーカー」は最も社会的脆弱性の高い、最も接近困難な集団となっており、信頼関係に基づくネットワーキングの構築が有効な支援の鍵となります。

本シンポジウムでは、厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策事業「個別施策層（特に性風俗に係る人々・移住労働者）の HIV 感染予防対策と介入効果の評価に関する研究」班の協力者であり、これまで外国人支援、セックスワーカー支援に携わってきた関係者を演者に迎え、それぞれ独自の視座で「滞日外国人と性の健康」について議論していただきます。現状と課題を多角的に検証し整理することで、今後の展望につなげることを目指します。

## セックスワーカーのいるまち 2009

「セックスワーカーのいるまち」は、「セックスワーカーとお客、ワーカーと経営者、異業種のワーカーどうし、ワーカーとワーカーではない人、コミュニティと行政と医療機関などの間にある『ギャップ』に、あきらめたり目をそらしたりすることなく」をテーマに、厚生労働省エイズ対策事業研究班が（財）エイズ予防財団・研究成果等普及啓発事業（研究成果発表会）の助成を受けて、1997 年度から継続して開催しているシンポジウムです。

2009 年度は「SEX★HEALTH★WORK」と題して、セックスワーカー NGO 関係者が「第 9 回アジア太平洋地域国際会議」（2009 年 8 月：インドネシア・バリ島）をはじめとする国際社会での議論（セックスワーカー・コミュニティの連携、トランスジェンダー・セックスワーカーをめぐる現状と課題、ワーカーズ・ライツをめぐる動向など）を報告する他、国内での調査研究を実施している研究者がその成果と課題を報告します。

研究班ホームページはこちら>>>

セックスの安心と安全を考えるサイト「せくすばっ」 <http://www.sexba.jp/>